

# 徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.8

2007.3.26

## 1年間の活動を振り返って

留学生センター長 永田俊彦

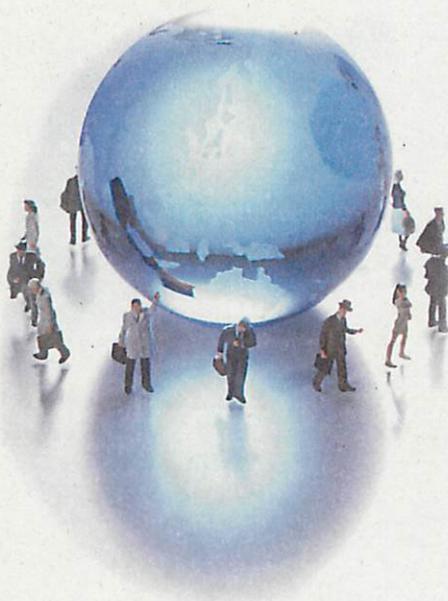


平成18年4月に地域・国際交流プラザ（日亜会館）が竣工し、2階に留学生センターと国際連携推進室、4階に留学生宿舎が設置されました。これまで分散していた留学生センターが目に見える形で集合し、国際課という新しい事務組織のバックアップを受けて実体ある組織になったという点で、本年度は記念すべき1年であったと感じております。教員が一堂に会することで組織としての団結力が増すのは当然で、センターとしての活動を質量ともに充実させることができたものと自己評価しております。これもひとえにセンター教員の日々の努力と事務方の

御協力の成果であり、紙面をお借りして感謝申し上げます。本年度の活動の詳細については、本紙面で紹介されますので御一読下さい。

現在、徳島大学では39の海外協定校のうち6校が海外拠点校に指定されています。これら拠点校と、学部には偏らない大学全体の交流を強化し、将来は更に質の高い留学生の受入れシステムを確立し、学生・教職員の相互交流を推進することを目指しております。この活動は国際化ポリシーの内容に合致するとともに、中期目標・中期計画の流れに沿った活動であります。したがって、今後の各部局における国際交流において、海外拠点校との交流が色々な面でアドバンテージが高くなることを認識しておいて頂ければ幸いです。

昨年度から本年度にかけて、留学生センターが一丸となって拠点校である慶北大学（韓国）や武漢大学（中国）との交流を積極的に展開しました。私自身も学長補佐（国際関係担当）兼留学生センター長として慶北大学および武漢大学を公式訪問し、両大学の国際交流担当副学長と会談して今後の交流計画についての前向きな方向性を確認してきました。現在、徳島大学と両校との学生交流は双方向で実施されており、教員の交流も全学的に広がりつつあります。今後、韓国および中国のトップクラスに位置する両校から優秀な留学生が多く派遣されることにより徳島大学の留学生教育のレベルアップが大いに期待できるものと思われまます。徳島大学の皆様には今後とも国際交流に対する御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。



# 1年間の活動を振り返って

## 2006年

4月10日(月)	日本語研修コース 開講式
5月～7月 計6回	公開講座「国際交流ボランティア入門」 最終日は「七夕 茶道体験会」
5月10日(水)	学生サポーター登録のための説明会
5月26日(金) 5月30日(火)	短期語学研修説明会 26日…常三島 30日…蔵本
5月27日(土) ～28日(日)	日本語研修コース ホームステイプログラム
6月1日(木)	武漢大学 短期サマーセミナーオリエンテーション
6月19日(月) ～23日(金)	武漢大学短期サマーセミナー
7月7日(金)	欧米圏留学説明会
7月14日(金)	アジア圏留学説明会
7月18日(火)	留学説明会(蔵本地区)
7月21日(金)	板野町交流会「外国人と友だちになろう」
8月3日(木) ～9月1日(金)	中国短期語学研修
8月3日(木) ～9月1日(金)	UWS短期語学研修
8月5日(土)	国際交流サロン 「阿波踊り体験」 (地域の方と留学生の交流会)
8月20日(日) ～9月25日(月)	S I U短期語学研修

9月2日(土)	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで—徳島」 (地域の方と留学生の交流会)
9月7日(木)	渭北公民館での交流会「外国人はお友達」
9月8日(金)	日本語研修コース 修了式
10月～12月 計6回	公開講座「国際交流ボランティア入門」 最終日は「茶道体験会」
10月13日(金)	日本語研修コース・日韓理工系コース 開講式
10月14日(土)	国際交流サロン 「書道」 (地域の方と留学生の交流会)
10月27日(金) 10月31日(火)	交換留学・研究留学説明会 27日…常三島 31日…蔵本
11月3日(金)	多文化体験交流会 & 国際交流サロン (地域の方と留学生の交流会)
11月10日(金) 11月14日(火)	短期語学研修説明会 10日…常三島 14日…蔵本
11月19日(日)	八丁野自治会と留学生の交流会
11月25日(土) ～11月26日(日)	日本語研修コース・日韓理工系コース ホームステイプログラム
12月16日(土)	国際交流サロン 「茶道」(地域の方と留学生の交流会) & 公開講座最終日
12月20日(水)	英語スピーチコンテスト

## 2007年

1月13日(土)	講演 「吉野川で遊ぶ」 講師 野田知佑 留学生センター (国際交流サロン) 全学共通教育センター 共催
1月14日(日) ～1月21日(日)	徳島文化・社会体験ツアー (慶北大学の学生10名を迎えて)
2月8日(木)	徳島市立高校受入留学生 (中国高校生招聘事業) 常三島キャンパス授業参加
2月9日(金)	日本語研修コース研修旅行 三好市立池田小学校訪問

2月10日(土)	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで —節分」
2月17日(土) ～3月19日(月)	U A短期語学研修
3月3日(土)	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで —ひな祭り」

## 「徳島短期文化・社会体験ツアー」を振り返って

留学生センター 坂田 浩



▲「茜庵」で記念撮影



▲学内ツアー



▲日本語授業

本学の海外拠点校である慶北大学校（韓国）の学生に対し「徳島短期文化・社会体験ツアー」を2007年1月14日から21日まで実施したのですが、振り返ってみると、実に実りある活動だったと思います。

今回のツアーでは、(1) 学内ツアーを通して、本学で進行している研究を視察する、(2) 日本語授業、(3) 阿波踊り、藍染め、ホームステイなどを通して、徳島の文化と生活を体験する、(4) パーティーなどを通して学生同士の交流を行う、といった活動を展開したのですが、参加した慶北大学学生にとっては、日本という異文化を体験できただけでなく、本学で行われている研究を直接見ることができたという実りを与えることができたと思います。事実、参加学生から「将来、徳島大学で研究をしてみたい」、「日本人がこんなに親切だとは思わなかった」という意見を聞いたことは、今回のツアーが将来的な相互交流を更に発展させる可能性が十分にあることを示唆していると思います。

学生が帰国してからおよそ1週間後に私の研究室宛に小包が送られてきました。中を開けてみると、参加者全員からのポストカード、写真入りのタペストリー、それにチョコレートとクッキーが入っていました。受け取った日が私の誕生日でもあったので、すぐに「すばらしい誕生プレゼントをありがとう！」とメールを送ったのですが、プレゼントの中身を見た時、「わずか1週間の滞在でもこちらが想像する以上の経験をしたんだな」と実感することができました。

留学生をキャンパスで見かけることはごく日常的事となってきた感もありますが、今回の「短期研修」は本学にとって初めての試みであったと思います。4月に国際連携推進室会議で永田センター長から「海外拠点校を対象とした短期プログラムを今年度中に実施しましょう！」という提案が出されてから7ヶ月、推進室会議の先生方をはじめ、国際課事務、留学生センターの先生方、本学学生、それに大塚製薬株式会社などの協力のお陰で今回の短期研修を無事に終えることが出来ました。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。

## 本学卒業生留学生に対する追跡調査 (中国、韓国)

留学生センター 金成海



▲開業歯科医柳先生と歯科病院の前にて

今年度、海外および国内で活躍されている徳島大学卒業留学生の研究活動などの追跡調査を行いました。主に、卒業留学生の研究活動状況、卒業留学生から徳島大学に対する意見収集、卒業留学生への支援、卒業留学生の同窓会設立に関する意見交換などを目的として、中国、韓国を訪問しました。

中国では25名と会うことが出来ました。就職先は大学関係が15名、日本企業が7名、会社設立2名、中国企業が1名でした。韓国では11名を訪問しましたが、大学関係が3名、研究所が1名、公務員が2名、日本関連企業が2名、自営業が1名、韓国企業が2名でした。日本国内に関してははいまだ調査中ですが、

就職先は大学関係が5-6名程度で企業が多いと思われます。

残念ながら、今回学部卒留学生とお会いすることが出来ませんでした。大学院修了留学生が殆どでしたが、徳島大学との共同研究などの交流を強く希望しており、また、指導している学生をぜひ本学に留学させたいと言われました。

今回の調査でいちばん感じたのは皆さんが各分野で大いに活躍されていることで、いちばん印象に残ったのは「徳島大学からの訪問に心から感謝します。また日本へ行きたい、もう一度徳島へ行きたい」との言葉でした。



▲中国人、シリア人の元留学生と上海にて



# 国際交流サロン

留学生センター 大石 寧子

留学生センター（以下センターとする）は、昨年3月に新蔵に移転したことを契機に、従来の地域及び徳島大学日本人学生と日本語で自由なおしゃべりをする「日本語サロン」を発展的解消し、「国際交流サロン」を立ち上げました。「国際交流サロン」は従来の日本語でのおしゃべりをベースにその月の行事や徳島の催事を留学生・日本人が同じ立場に立って一緒に協力、体験する協働型サロンです。センター教員5名で毎年行なっている大学開放実践センターの公開講座「国際交流ボランティア入門ー徳島に住む外国人を支援するとは」の修了生から生まれたボランティアグループJSS（Japanese Speaking Salon）が月一回の運営実施を行い、センター側がサポートするという新しい試みの「地域主導型」の運営形態で行なっています。留学生からは、「知ってはいてもなかなか体験することのできなかつた徳島や日本の行事に地域の方と日本語を使って交流できたことが良かった」という声が、地域の方からは、「留学生と接する機会がなかったので、とても良かった。また機会があったら参加したい」という声が多くありました。来期は、参加する地域の方が受け身でなく、参加者の方からも企画の持ち込みなどがあるよう、JSSと運営方法を考えていきたいと思えます。1年目の試みは、のべ参加人数204名で、内容は以下のようでした。

2007. 2月28日現在

No	実施日	内 容	参加人数 (地域・留学生)	備 考
1	06. 8 / 5	日本語でおしゃべり、踊れへんでー阿波踊りー	36名 (24・12)	
2	06. 9 / 2	日本語でしゃべらんでー日本語でおしゃべりー	24名 (13・11)	
3	06. 10 / 14	日本語でしゃべらんでー書道ー	29名 (16・13)	
4	06. 11 / 3	「多文化交流」	ー (11・ー)	徳大祭・留学生センター交流会に合流
5	06. 12 / 16	留学生との触れ合い体験ーお茶会ー	18名 (12・6)	06秋冬期公開講座修了者と合同で実施
6	07. 1 / 13	講演会「吉野川と遊ぶ」	61名 (47・14)	「日本事情Ⅳ」(全学共通教育センター)と共催
7	07. 2 / 10	日本の2月の行事を体験しようー豆まきして日本語でしゃべらんでー	36名 (27*・8) *含.小児	「中国高校生招聘事業」高校生3名も参加(受入:市立高校)
8	07. 3 / 3	日本の3月の行事を体験しようー桃の節句にお雛様を飾り日本語でしゃべらんでー	ー	

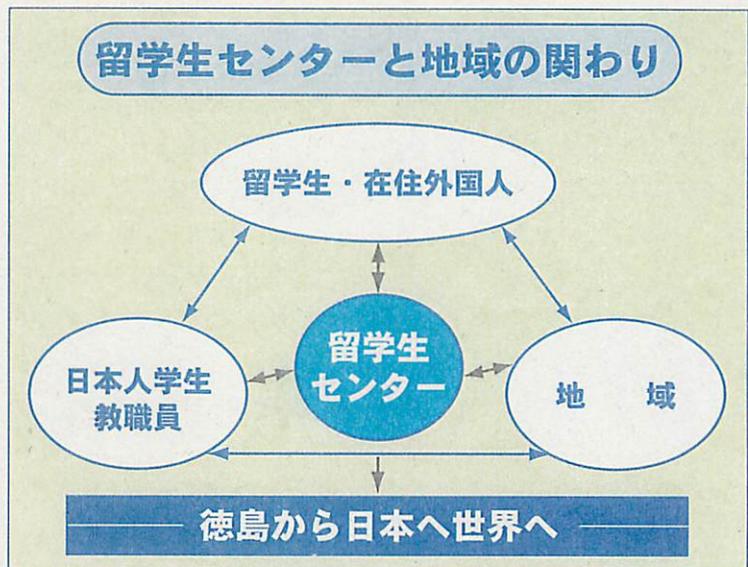
\*第4回は留学生センターの交流会（自由参加型）に合流、第8回は集計後の催しの理由により参加人数には含まず。

## 地域との連携活動

留学生センター 三隅 友子

留学生センターは昨年3月に新蔵キャンパスの地域・国際交流プラザ（日亜会館）2階に移転し、地域連携推進室（徳島大学における社会貢献・地域連携の推進に努める機構）の関係部局として活動を進めています。

センターを中心に、留学生（在住外国人を含む）と学内の日本人学生と教職員、そして地域のみなさんといった、人と人を結ぶ様々な活動をこれまでも計画、実施してきました（図）。2006年度は日亜会館を本拠地として新しい異文化理解の活動が可能になりました。これらは、特に留学生にとっては日本語（方言）と日本文化の体験、日本人にとっては、様々な国の留学生との出会いによる異文化体験となります。活動を通して日本人からは、お茶やお花を留学生と共に楽しむことによって、日本文化を再認識することができたという声も聞かれました。



▲しんくら会館でのお茶会（5月）



▲日亜会館でのいけばな制作（6月）



▲サポーターとの日本語授業（5月）

学外では、ホームステイで県内の家庭（日和佐・鳴門・鴨島等の地区）に留学生を受け入れていただき、また小学校（日和佐・池田）から高等学校（市立・城ノ内）そして公民館（渭北・板野）といった様々な教育機関を訪問し、自国紹介を中心とした交流活動を行いました。

これからも多くの地域のみなさんに、これらの活動にまず参加していただき、そしてこの出会いの場で得た気づきを、これからの地域の国際化すなわち、多くの外国人と共生・協働といった問題を共に考えるという段階へ進めることを目標にしたいと考えます。今後も地域で活躍する多くの国際交流団体や組織と協力し、ネットワークを広げていきます。



▲小学校訪問（7月）

## 日本語研修コース・日韓理工系コース

留学生センター 上田 崇仁

2006年度春期の日本語研修コースは、ドミニカ共和国、アメリカ合衆国、バングラデシュ、中国からの留学生、総勢6名で授業を行いました。

新蔵地区へ移転して初めてのコースは、週5日間の授業の内、3日を常三島地区で、2日了新蔵地区で行う形で進めました。設備の整った新蔵地区での授業でしたが、一方で、日本人学生や地域の方との接触をいかに確保するかが検討課題となりました。

学外活動としては、NHK徳島放送局（旧館）の見学、渭北公民館での地域のみなさまとの交流会、恒例のまちたんツアーも実施しました。

研修旅行では、美波町立日和佐小学校へ出かけ、自国紹介のスピーチを披露し、給食を各クラスに別れていただきました。授業見学など、心に残る旅行ができたと思います。

2006年度秋期の日本語研修コースは、4月から鳴門教育大学で教員研修を受ける予定のミャンマー、ラオス、フィリピン、ベネズエラ、タイの学生、学内から応募のあった中国、エジプト、インドネシア、バングラデシュからの留学生、総勢11名でスタートしました。秋期は、地域の方との接触を増やそうと考え、常三島地区で2日、新蔵地区で3日という形で授業を進めました。しかしながら、結果として日本の学生との接触が激減したため、日本語学習のための動機付けが高まらず、日本語での実践的な会話の場から遠ざかり、その結果としての日本語の定着に課題を残しました。やはり、「教室を出たら日本語の世界」という環境が常に確保できている常三島地区での授業が有形無形の影響を与えているように感じました。学生・地域サポーターとの活動をより効果的、効率的に行うことを今後検討していく必要があると考えています。

恒例の研修旅行では、三好市立池田小学校へ出かけ、5年生と6年生の二組に分かれ、自国紹介のスピーチを披露し、1年生から6年生までの各クラスに別れて給食をいただきました。授業見学では、体育の授業や書道の授業には参加させていただき、とても印象に残ったようでした。

日本文化に触れる企画として、生け花に挑戦してみました。作品は、留学生センターで展示しました。

2006年度秋期は、日韓共同理工系コースも開講されました。学内募集に応じた3名を含め、韓国、アメリカ、中国、総勢4名で授業を行いました。このコースは、来年度、工学部の1年生に入学する予定の学生に、必要な日本語を始めとした基礎学力をつけるのが目的です。初級修了の学生を対象としました。研修旅行は日本語研修コースと同じく、三好市立池田小学校を訪問しました。

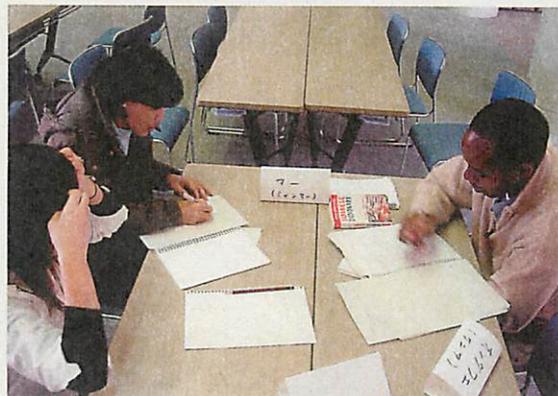
今年度、新蔵地区で初めての授業を行いました。充実した教室と日本人との常時的な交流、この両者のメリットを最大限導き出したカリキュラムを今後検討していきたいと考えています。



## 国際交流を始めませんか

### ～学生・地域サポーター募集～

留学生センターでは、徳島大学で学ぶ留学生の日本語教育を始めとした様々な活動に協力していただき、学生サポーターと地域サポーターを募集しています。徳島大学の学生、一般の方、どなたでも参加できます。具体的には、日本語の授業に参加していただき単純な練習相手から協働学習の相手となっていたり、国際交流サロンでの交流活動に参加していただいています。登録していただいたあと、活動ごとにご案内をしています。参加できる活動を選んでご参加ください。参加・不参加のご連絡をお忘れなく。



### ～ホストファミリー募集～

留学生センターでは、日本語研修コースを始めとした日本語教育に組みこんだ、ホームステイプログラムを行っています。基本的には一泊二日の短いプログラムです。今後、当センター独自の様々なプログラムを企画する中で、ホームステイが重要な活動になっていくと思われます。登録していただいたあとで、ご希望に添ったプログラム実施のたびにご案内しています。留学生の希望とのマッチングを経て、学生をご紹介します。

### ▶▶▶ お問い合わせ・登録については、こちら

#### 留学生センター 日本語教育部門

副センター長	教授	大石 寧子	oishi@isc.tokushima-u.ac.jp
	教授	三隅 友子	misumi@isc.tokushima-u.ac.jp
	助教授	上田 崇仁	ueda@isc.tokushima-u.ac.jp

#### 編集後記

新蔵へ移転して最初の1年、センターの活動も多岐にわたってきました。今号は、1年の活動を振り返ってご紹介しました。新年度も、ご紹介した活動は継続していきます。今後も学内外のご協力を得ながら、徳島大学、徳島地域の国際化に努力していきたいと考えています。是非、様々な活動にご参加ください。

発行 徳島大学留学生センター

住所 徳島市新蔵町2-24

Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873

E-mail : ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp